

NEWS LETTER

平成30年11月26日
一般財団法人岩手経済研究所

平成30年冬の岩手県内ボーナスアンケート(使途調査)および支給額の推計について

一般財団法人岩手経済研究所(理事長:高橋 真裕)は、定例の「平成30年冬の岩手県内ボーナスアンケート(使途調査)および支給額の推計」を実施しました。

本調査の概要は以下のとおりです。

受取額予想 ～「昨年並み」が7割強

「昨年とほぼ同額」 72.9%

※ 前回(平成29年10月)調査比2.9ポイント上昇

本調査の内容は、別紙「平成30年冬の岩手県内ボーナスアンケート(使途調査)および支給額の推計」のとおりです。また、詳しくは11月30日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 平成30年12月号(No.433)」にも掲載いたします。

岩手経済研究所

〒020-0871
岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
岩手銀行中ノ橋支店3階
TEL 019-622-1212 FAX 019-654-8059

平成30年11月26日

**平成 30 年冬の岩手県内ボーナスアンケート
(使途調査) および支給額の推計**

盛岡市中ノ橋通一丁目 2 番 16 号
岩手銀行中ノ橋支店 3 階
一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕
(担当 経営相談部 岩渕 啓一)
TEL 019-622-1212

＜ 調査結果の概要 ＞

1. ボーナス使途アンケート調査結果

(1) 受取額予想 ～「昨年並み」が7割強～

平成30年冬のボーナス受取額予想は、「昨年とほぼ同額」とする回答が全体の72.9%（前年比2.9%増）、「昨年より多い」とする回答は14.6%（同4.9%減）となった。一方、「昨年より少ない」とする回答は7.3%（同0.3%減）、「賞与がない」とする回答は5.2%（同2.3%増）となった。

■ ボーナス受取額増減予想

(単位：%、%)

	29年冬季			30年冬季			前年比		
	民間	公務員	合計	民間	公務員	合計	民間	公務員	合計
昨年より多い	21.2	15.5	19.5	13.6	16.3	14.6	△7.6	0.8	△4.9
昨年とほぼ同額	65.8	79.8	70.0	69.0	79.8	72.9	3.2	0.0	2.9
昨年より少ない	8.8	4.7	7.6	9.2	3.9	7.3	0.4	△0.8	△0.3
賞与がない	4.2	0.0	2.9	8.2	0.0	5.2	4.0	0.0	2.3

民間が「昨年とほぼ同額」が69.0%（同3.2%増）、「昨年より少ない」は9.2%（同0.4%増）、「賞与がない」は8.2%（同4.0%増）とそれぞれ前年を上回る一方、「昨年より多い」は13.6%（同7.6%減）と減少した。人手不足から平均給与は堅調に推移しているものの、昨年（29年）の調査では、「昨年より多い」とする回答が前年（28年）対比7.4%増加したものの、今回の調査では「昨年より多い」がむしろ減少しており、県内の多くの会社員が今冬のボーナスについて引き締めて見込んでいる結果となった。

公務員は「昨年より多い」とする回答が16.3%（同0.8%増）と前年をやや上回り、「昨年とほぼ同額」が79.8%（前年と同値）、「昨年より少ない」が3.9%（同0.8%減）となった。県人事委員会が、民間との格差是正を図るため5年連続で県職員の月給や期末・勤勉手当（ボーナス）の引き上げを勧告したことから、行政職の給与は0.17%、賞与は年間0.1カ月分の引き上げが見込まれているが、引き上げ分は夏季ボーナスへ振り分けられていることなどから回答内容が前年の調査とあまり変わらないものとなった。

(2) 使途計画 ～使途は「消費」が「貯蓄」を上回る～

ボーナスの使途については「消費」が41.0%（前年比2.0%増）、「貯蓄」が36.7%（同4.8%減）、「返済」が22.3%（同2.8%増）となり、今年は「消費」と「返済」が増加し、特に「消費」は3年ぶりに「貯蓄」の比率を上回った。

■ ボーナス使途調査（男女・独身・既婚別）

(単位：%、%)

		男 性			女 性			合計	前年比
		独身者	既婚者	計	独身者	既婚者	計		
消 費	買 い 物	16.5	11.3	12.1	15.0	12.5	13.2	12.5	△0.9
	レ ジ ャ ー	4.9	5.3	5.3	8.7	3.7	5.2	5.2	△0.0
	交 際 費	3.8	5.0	4.8	3.4	3.4	3.4	4.4	△0.5
	教 育 費	0.8	11.2	9.7	1.3	11.7	8.5	9.3	1.1
	そ の 他	9.6	9.0	9.1	4.8	13.2	10.6	9.6	2.4
	小計	35.7	41.9	41.0	33.1	44.4	41.0	41.0	2.0
返 済	住 宅	5.4	16.4	14.8	0.0	3.2	2.3	10.9	2.8
	自 動 車	4.4	4.4	4.4	2.2	4.0	3.4	4.1	1.1
	教 育	0.4	1.3	1.2	0.4	1.1	0.9	1.1	0.0
	ク レ ジ ャ ッ ト	4.5	3.0	3.2	1.8	3.5	3.0	3.1	△1.0
	そ の 他	4.9	3.0	3.3	2.2	2.8	2.6	3.0	△0.2
	小計	19.6	28.0	26.8	6.6	14.6	12.2	22.3	2.8
	貯 蓄	44.7	30.1	32.2	60.3	41.0	46.8	36.7	△4.8

(注) 四捨五入の関係で計が一致しないことがある

(3) 購入予定商品 ～買い物を中心は「衣料品」～

「消費」の中で最も多かった「買い物」を選択した人の購入予定商品のベスト 10 をみると、「衣料品」の割合が 72.6%と突出している。品目別ではスーツ、アウター(防寒着含む)、子供服、コート等が多く、特に既婚女性では子供服という回答が目立った。以下「靴・カバン・アクセサリ」23.2%、「スポーツ用品」19.5%、「お歳暮など贈答品」14.6%、「タイヤ・ドライブレコーダーなど車関連用品」12.8%と続いている。

今年の購入商品は「衣料品」や「靴・カバン・アクセサリ」「お歳暮など贈答品」「車関連用品」など日常生活用品が例年通り上位にランクインしているほか、「スポーツ用品」「玩具」などの割合が上昇した。

「スポーツ用品」は、2年連続でランクインし、前年の4位から3位となった。男性は独身者、女性は既婚者の割合が高く、特に既婚女性では子供のクラブ活動で使用するものの購入が多くなっている。「玩具」はクリスマスプレゼント用のロボットや人形などの定番商品のほか知育玩具などが人気で前年比 3.1 ㊦上昇したほか、昨年はベスト 10 に入らなかった「DVD・BD」「ベッド・寝具類」「時計・貴金属」がランクインした。一方、「掃除機」や「携帯電話・スマートフォン」、「カメラ、ビデオカメラ」「インテリア(カーペット等)」は圏外となった。

■ 購入予定商品ベスト 10 構成比

(単位：%、㊦)

順位	品目	男 性			女 性			合計	前年比
		独身者	既婚者	計	独身者	既婚者	計		
1	衣 料 品	85.7	65.8	70.2	77.8	74.4	75.7	72.6	8.2
2	靴・カバン・アクセサリ	23.8	15.1	17.0	37.0	27.9	31.4	23.2	△ 1.8
3	ス ポ ー ツ 用 品	33.3	21.9	24.5	7.4	16.3	12.9	19.5	2.8
4	お歳暮など贈答品	4.8	20.5	17.0	0.0	18.6	11.4	14.6	△ 2.6
5	タイヤ・ドライブレコーダーなど車関連用品	23.8	15.1	17.0	11.1	4.7	7.1	12.8	△ 0.5
6	玩 具	0.0	13.7	10.6	0.0	14.0	8.6	9.8	3.1
7	パソコン及び周辺機器(タブレット端末)	9.5	9.6	9.6	3.7	2.3	2.9	6.7	1.7
8	D V D ・ B D	4.8	2.7	3.2	11.1	2.3	5.7	4.3	0.9
9	ベ ッ ド ・ 寝 具 類	9.5	2.7	4.3	0.0	4.7	2.9	3.7	0.3
9	時 計 ・ 貴 金 属	9.5	2.7	4.3	7.4	0.0	2.9	3.7	0.9

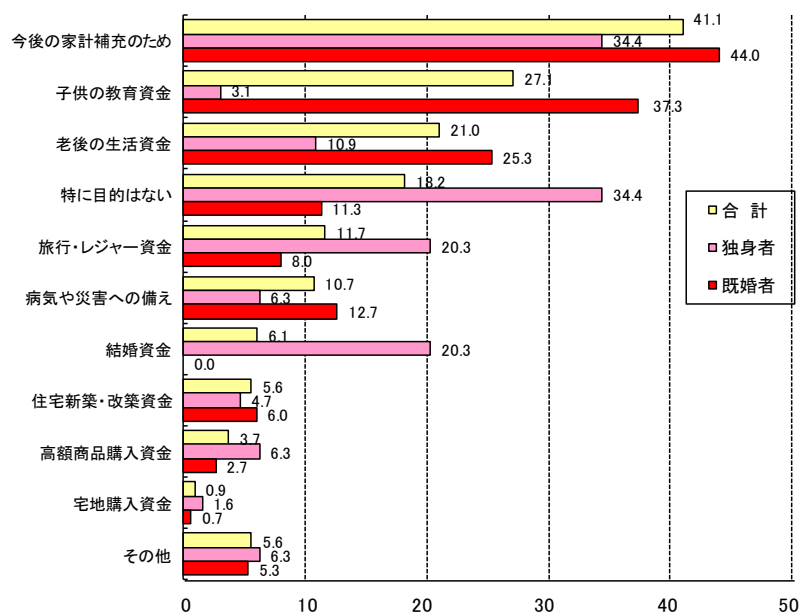
(注) 複数回答のため合計は100%を超える

(4) 貯蓄目的 ～「今後の家計補充のため」が中心～

貯蓄の目的は「今後の家計補充のため」が 41.1% (前年比 1.9 ㊦増) と最も高く、以下「子供の教育資金」が 27.1% (同 2.9 ㊦増)、「老後の生活資金」が 21.0% (同 4.8 ㊦減) となった。「家計補充」「教育」「老後」の3項目が上位を占めるのは例年どおりだが、特に「子供の教育資金」の割合が増加している。

■ 貯蓄目的

(単位：%)



(注) 複数回答のため合計は100%を超える

(5) 貯蓄等の種類 ～「普通預金等」が7割強～

貯蓄の種類は「普通預金等」が71.5%（前年比9.0%増）と最も高く、次いで「定期預金等」32.2%（同6.1%減）、「財形貯蓄」12.6%（同3.2%減）、「投資信託」9.8%（同1.9%減）となった。貯蓄目的で最も割合の高い項目が「今後の家計補充のため」であったことを反映し、安全性や流動性が高い金融商品が例年どおり上位を占めた。種類別にみると、「定期預金等」「財形貯蓄」「投資信託」などの割合が低下したものの、「普通預金」「社内預金」「確定拠出年金」などの割合が上昇した。「確定拠出年金」は昨年1月より主婦なども利用可能になったことなどから女性の割合が上昇した。

■ 貯蓄等の種類

（単位：％、％）

	男 性			女 性			合計	前年比
	独身	既婚	小計	独身	既婚	小計		
普通預金等	78.1	68.8	71.1	78.1	68.5	72.1	71.5	9.0
定期預金等	15.6	30.2	26.6	37.5	42.6	40.7	32.2	△ 6.1
財形貯蓄	9.4	12.5	11.7	9.4	16.7	14.0	12.6	△ 3.2
投資信託	9.4	8.3	8.6	15.6	9.3	11.6	9.8	△ 1.9
社内預金	3.1	4.2	3.9	9.4	1.9	4.7	4.2	2.5
株式	0.0	4.2	3.1	0.0	1.9	1.2	2.3	0.2
確定拠出年金	0.0	1.0	0.8	6.3	1.9	3.5	1.9	0.2
外貨預金	0.0	3.1	2.3	0.0	0.0	0.0	1.4	1.0
国債	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△ 0.4
社債	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金投資	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9.4	0.0	2.3	3.1	3.7	3.5	2.8	2.8

（注）複数回答のため合計は100%を超える

2. ボーナス支給総額の推計結果 ～支給総額の推計は前年を下回る～

(1) 支給総額

この冬、岩手県内で支給されるボーナスの支給総額は、民間と公務員を併せて1,561億円と推計される。昨年の冬に比べると金額で15億円減、増減率では0.9%減と見込まれる。

(2) 民間

民間の支給総額は1,206億円と推計され、前年比21億円減（同1.7%減）と減少する見込みである。これは雇用情勢の改善などから平均給与は堅調に推移しているものの、復興需要のピークアウトなどにより、建設関連の業種で従業者数がマイナスとなっているほか、製造業や卸・小売業などでも従業者数が減少していることなどが要因である。

(3) 公務員

一方、公務員の支給総額は355億円と推計され、同6億円増（1.8%増）と前年を上回る見込みである。これは支給対象者数が増加するほか、民間企業の賃上げを反映して人事院勧告等で国家公務員や県職員の給与およびボーナスが小幅ながら5年連続で引き上げ改定されることが影響している。

■ 30年冬季ボーナス支給総額推計

（単位：億円、％）

	27年	28年	29年	前年比	30年推計	前年比
民間	1,221	1,233	1,226	△ 0.6	1,206	△ 1.7
公務員	337	343	349	1.8	355	1.8
合計	1,558	1,577	1,576	△ 0.1	1,561	△ 0.9

（注）四捨五入の関係で合計が一致しないことがある

< 調査要領 >

1. 調査内容

平成30年冬のボーナスアンケート（使途調査）およびボーナス支給総額の推計

2. 調査時期

平成30年10月上旬～11月上旬

3. 調査対象

岩手県内で働く会社員 660 人、公務員 240 人、合計 900 人

4. 回収状況

有効回答数 288 回収率 32.0%